

(様式)

第 5 回かわにし市民会議 議事メモ

班	3 班「住宅都市としての魅力向上」
コーディネーター	山根 晃
ナビゲーター	なし
説明担当者(自治体)	なし
日時	2019 年 9 月 14 日(土) 13 時 00 分から 16 時 00 分
場所	川西役所 4 階 庁議室
その他	参加者数 18 名

趣旨・概要

3 班からの提案(案)の確認
提案書について意見交換

総括

コーディネーター総括

提案書の中に入っていることを「行政がやるべきなのか?」「今は個人でやるのがいいんじゃないの?」と考え行動に移していくことが大事で、行政だけでなく市民の皆さんも地域に帰った時に、1 つでも考えたり行動へ移していただきたい。

市が行っている地方自治は手が届いていない部分が多くある。市の構成の中に市民があり、市と市民と一緒に自治を行っていくことが地方自治の形であり、その仕組みの一つに自治会やコミュニティなどがある。自治体が全てやっているわけではないし、できていることもある。是非、市民会議をきっかけに行政活動に興味をもっていただき、地域活動にも参加いただきたい。

協議の流れ

1 3 班の提案書案の説明

コ) 今まで 4 回に渡って議論を行ってきた内容と皆さんに記入いただいた改善提案シートの内容を柱建てして提案書案としてまとめている。市で検討している内容も盛り込んでいるので、該当箇所の内容については部会員より説明いただく。

幅広い内容で、他の班の内容と重なっている内容もあるが、3 班としては大きく 8 本の提案内容にまとまっている。提案の順番については皆さんに諮っていきいたいと考えている。

提案 1 空き家を増やさない取り組みと合わせて空き家を利活用する仕組みを整備する

提案 2 市民が利用しやすい公共交通の整備を進める

提案 3 子どもがのびのびと遊べ、誰もが余暇を楽しめる場所を整備する

提案 4 市内一律ではなく、それぞれの地域にあった地域交流を促進する

参) : 市民参加者、コ) : コーディネーター、ナ) : ナビゲーター、市) : 説明担当者

(様式)

提案 5 災害時にお互いが助け合える関係を、日常の地域交流を通じて育む

提案 6 誰もが安全安心に生活できる住環境をつくる

提案 7 市内美化と自然を生かしたまちづくりを進める

提案 8 「川西市は住みやすいまち」というイメージを市全体で共有し、積極的に発信する

意見提出シートについては、新しい意見をプラスアルファすることは難しいと思うが、「この考え方は掘り下げてこうした方がいいのではないか」ということは記入をしていただきたい。

今後、11 月末に全体会を予定しており、総合戦略の素案が市より提示される。この場は実現可能性について検討ができていないので、11 月末の時には市で検討していただいた上で提示があると思う。

ネガティブに考えずに、皆さんが参加した会議どこが盛り込まれたということを見ていただきたい。1 回だけで変わっていくということは少ないかと思うので、今後も継続的に続けていく必要があるのではないかと考えている。

班ごとの会議は今回で最後となりますが、皆さんの意見を大切に、市の総合戦略に反映されるように進めていきたいと考えている。

2 部会員案の説明

市) 3 班の案については、皆さんに記入いただいた改善提案シートと議事内容に加えて部会員の提案も盛り込んでいる。該当の場所は、黒く色掛けを行っている部分となる。「部会員の提案だから残す、承認してもらおう」ではなく皆さんの意見と並べて検討していただきたいと考えている。

< 部会員案のポイント >

提案 1 については、空き家を借り上げ、利活用を行うことを追加している。

提案 3 については、「特徴のある公園を整備する」という取り組み内容の具体的なイメージの部分を追加している。

提案 5 については、提案 5 の実現に向けて、それぞれが行うことの個人の部分に「消防団に加入する」を追加している。具体的なイメージの部分には防災に関する具体的な取り組みを追加している。

提案 6 については、提案 5 の実現に向けて、それぞれが行うことの行政の部分に「救命率向上をめざす」を追加している。救命率向上ということに関しては、川西市の消防の技術は阪神間でも高いが、地形的に南北に長いという特徴があり、どうしても救急車等の現場到着時間がかかる場所がある。現場到着までの間に市民救命士として救急活動に加わってもらえないかと考えた。

また、具体的な取り組みイメージの部分で、GPS やビーコンなどを活用した子供の見守りということは認知症などのお年寄りの見守りにも活用できるのではないかと考

参) : 市民参加者、コ) : コーディネーター、ナ) : ナビゲーター、市) : 説明担当者

(様式)

えている。住宅都市の魅力は安心安全ではないかということで防災・防犯を中心にアピールできたら良いのではないかという話となった。

コ) 先ほど子供の見守りに関するシステムの話があったが、足立区でも今年から始めている。その際、伊丹市へも視察へ行った。

3 提案書についての意見交換

提案内容について

参) 提案4の「その他の意見」の部分で、地域で行う掃除などのイベントを地域住民の交流の場として認識してもらうべきではないかという意見があったが、私が住んでいる丸の内町の案内は運動ばかりなので、清掃などのイベントの案内があれば参加しやすいと感じた。

コ) みなさんのところで清掃活動の案内はどのような感じですか？定期的に行われているなどあるか？

参) 自治会の限られたメンバーで清掃活動を行っているため負担も大きかったため、行政に支援を申し出たら、行政も支援をし、普段の清掃活動のお礼の言葉までもらった。これが自治会と行政の良い関係なのかなと感じた事例だった。また、清掃に参加したあとは気持ちがよく、清掃した場所への愛着心も湧いた。防犯パトロールなども自治会はやっているので、まず参加してみるのが大切だと思う。参加のハードルを下げるためには自治会費を下げる事や様々なイベントから参加できるものを選んでもらうなど取り組むのが良いと思う。

参) 私が住んでいる地域では、「清掃活動に参加して下さい」という案内は見たことはない。

コ) 回覧板に「〇月の第〇曜日は清掃活動の日です」など案内が入っていないか？

参) 自治会員しか回覧板を回していないと思う。「自治会員以外にも回したらどうか？」という意見もあったが、「自治会にも入らない人たちなので、清掃活動には来ないだろう」ということで自治会員に

しか回覧を行っていない。

参) 私は自治会を辞めた方の立場だが、回覧板は回ってきても物品販売の連絡しかこなかったイメージがある。清掃活動の案内などがあると「参加しようかな」と考えたりもするが、あまり情報が入ってこないで自治会は辞めてしまった。

コ) 情報が入ってきていると時間があったら行ってみようかなと考えられると思うが、情報発信については、自治会ごとにばらつきがあるのではないのでしょうか。

何でもないときには問題ないかもしれないが、有事の際には関係性が分からないと1人ずつでしか行動できないというところがあると思う。周囲との関係性について普段からどのように自分事として考えていくかということが大事。

参) 私の自治会は案内が回ってきている方だと思う。私が子供のころはクリーンアップも市が中心となっていていろいろな団体に呼び掛けてやっていたと記憶しているので、クリ

参) : 市民参加者、コ) : コーディネーター、ナ) : ナビゲーター、市) : 説明担当者

(様式)

ーンアップの旗振り役は川西市が行っていると思う。回覧板で情報が入ってくるし、自治会独自の会報誌がある。

コ) 市の広報からだけで伝えるということは難しい。

参) 何かの団体に所属していないと情報が入ってこないのではないかと思う。今回の千葉の災害でも情報が伝わっていないということを聞いた。

コ) 千葉では現在も停電が続いているので、ホームページを見れば書いているというものではなく、口コミしか情報源がないと聞いている。顔が分からないといろいろな話を
する機会が少なくなってしまうね。

参) 総合戦略は何年の計画なのでしょうか？

コ) 3年です。

参) 今回、提案した内容がどのように総合戦略に反映されるかということ考えた時に、3班の提案書においては、提案2と提案6は提案内容に対する具体性が少ないのかなと感じた。

例えば、提案2であれば「市民が移動しやすい他機関交通間の整備を進める」であったり、提案6であれば「防犯対策を高めた住環境にする」など、1つの取組施策を中心に提案内容を作る方が説明もしやすいかなと思う。また、提案6については、幅広い内容となっているので、内容を絞った提案の方がいいのではと感じた。

参) 提案書の内容を見ていると、何が課題かが分かりにくい部分があると感じる。それぞれの提案において何が一番の問題と考えていて、市が何に取り組まなければならないのかということをはっきりしてもらいたいと思う。

コ) おそらくここでそのレベルまで議論しようと思うと5回では足りないと思う。参加されている皆さんの価値観が違う中からどれが必要なのかと絞ることはこの場では難しいし、絞ってしまうと他の意見が聞けなくなってしまうと考えているので、市民会議の場では、どうしても「発散」が中心になってしまうと思う。

逆にいうと、市は3年間の戦略立案の中で何に重きを置いて戦略を練るのか、時間軸なのかお金なのか人のかななどを市長中心に決めていくことになると思う。そのようなプロセスの中で大切なことは、普段から皆さんが感じていることを伝えていただくことなのではないか。

参) 住宅地などでは自治会を中心に清掃活動が行われていると思っているのですが、中心市街地の企業は就業時間外も含めて清掃活動などをやっているのか？あまり見かけた記憶がない。普段から清掃活動が行われているのを見ているとゴミをポイ捨てしようという気にならないと思っている。市役所と企業とが一緒に清掃活動を行っているのか？

市) 企業と一緒にということはないと思う。市の職員がボランティアで市役所周辺の清掃活動は行っている。

コ) 自治体によって違うと思う。

参) : 市民参加者、コ) : コーディネーター、ナ) : ナビゲーター、市) : 説明担当者

(様式)

足立区は企業や自治体と一緒に年に2回清掃活動を行っている。区長が警察出身者ということもあり、美化活動は防犯につながるという考えで行っている。

参) もう一つは、小学生と一緒にやるのが大切じゃないかと考えている。なぜなら、小学生が清掃活動を行っている大人もポイ捨てはしないのではないかと考えているからである。

コ) 足立区の年に2回の清掃活動の際は、小学校と一緒に実施している。

参) 私の地区の周辺では、ダイハツや東洋ゴムが清掃活動をやっているのを見たことあるし、中心市街地のJR川西池田駅周辺では、葬儀場のセレ・ナスが朝方清掃活動をやっているのを見たことがある。

コ) 足立区の場合は清掃用具の貸し出しや区の清掃活動に参加してくれている企業の認証も行っている。もちろん、企業単独や企業と近隣地域とで社会貢献活動として取り組まれているケースもあると思う。

参) 提案8についてですが、個人的には、「分かりやすいまち」というのは住みやすいまちに繋がるのかなと思う。例えば災害が発生した時にどこに聞けば避難ができるや行政のどこのページを確認すれば自分にとって必要な情報が手に入るとか分かりやすいと良いと思う。

公園やコミュニティの掲示版に困ったことを探せるQRコードやURLの案内があればいいと思う。例えば防犯に関する防犯専用のQRコードを読み込んだら最近あった事故や火災の情報が得ることができるようなイメージ。

情報を得るツールを持っている人が増えているので、市役所や自治会に聞かなくても簡単に情報を調べることができる案内があればいいと思う。「住みやすい=調べたら何でも分かるまち」であってもいいのではないかな。

ちょっと気になることを調べられるようなものが用意されている市であって欲しいと思う。

コ) 今、話していただいたイメージを実現するには市がやった方がいいでしょうか？地域ごとにやった方がいいでしょうか？

参) 自治会の仕事が多いのであれば、何でもありの自治会ではなく自治会と行政の役割をフラットにし直して欲しいと思う。

コ) 「情報が手に入る」ということは非常に重要なことだと思う。ただ、具体的にどう実現するかと考える行く時に、行政側が検討していくとなると情報弱者や自治会を中心に考えていくため紙媒体がという話になりやすい。もう少し情報発信のチャンネルを増やして欲しいというのは確かにという気がします。

コ) 最近市の掲示板が活用されていないですね？

参) 掲示するためには市の許可が必要になるので、何でも自由に貼れるというわけではないと思う。何かの活動を行っている人が掲示をしても、その活動に興味が無い人は掲示板を見ないようになってしまう。色々な人が住んでいるのがまちだと思うので、最大公約数をとると今のような活用状況になってしまっているのではないのでしょうか。

参) : 市民参加者、コ) : コーディネーター、ナ) : ナビゲーター、市) : 説明担当者

(様式)

参) ICT リテラシーとか色々言われていますが、ホームページなどもアクセスしたところしか見れないところもあるので、難しいですね。

コ) 掲示板やホームページだけでは無く、色々なメディアじゃないと伝えられないと思うので、難しい。ただ、先ほどの話のように皆さんが感じていることを声に出してもらおうということが大切ではないでしょうか。

コ) 市の広報誌は全戸配布か？

市) 全戸配布である。

コ) 足立区も区の広報誌は 33 万世帯に月 2 回、全戸配布をしている。

今、一般的な広報誌の配布の仕方としては自治会に回覧をしてもらっているところが多いので自治会に加入している世帯にしか回覧されない。川西市は自治会に加入している・いないに関わらず全戸配布するという事なので、行政の情報を伝え方としてはいい方法だと思います。市の広報誌の配布方法は費用もかかるので、自治体によって違います。

参) 提案 6 の実現に向けて個人が行うことの中の「 高齢者等は運転に不安を感じれば、速やかに免許を返納する」についてですが、先日、同居している 82 歳の義理の父が高齢者講習を受講した。自分の運転に不安を感じていると免許を返納するのではないかとと思っているが、本人が自分の運転に不安を感じていないから免許の更新をしようとしているのではないかと思う。運転に不安を感じるのは家族などの周囲じゃないかなと思うので、家族などの周りの人が免許返納を本人に進めることが必要ではないかと感じる。

また、「高齢者の免許返納を促すには交通手段の補助が必要ではないか」とあるが、目的地に行きたいということであれば代替交通手段の補助を行えば良いと思うが、お米やお酒を買いに行きたいと思っていた時には、電車で買って帰るというわけにはいかないのではないかと思う。果たして、交通手段の補助が必要なのか？と考えてしまう。川西市が高齢化しているという中で、川西市は他市と比較して高齢者の事故が多いのか？多くないのだとしたら交通費の補助は必要ないのではないかと思うので、もう少し色々な情報を含めて議論をしたいなと感じている。

コ) 「運転に不安を感じる」というのはそれぞれ感じ方に差がある。年齢が若い方でも目の見え方に不安を感じたら免許を返納するかもしれないし、家族でもなかなか本人に返納を促すことが難しかったりすると思う。この交通の話は皆さんに身近な話ですよ？

参) 交通事業者のテーマなのでこのような場で話しても実現は難しいのかなと感じますが。

コ) 1 個人や自治会から交通事業者への提案は難しいので、行政が交通事業者に要望を伝えるという役割は大きいと考える。ただ、市が何を取り組むかということを検討することは必要だと思うし、考えていく中で全体を考えると難しいと思うので、モデル地域を検討してはどうかと思うがどうか？

参) : 市民参加者、コ) : コーディネーター、ナ) : ナビゲーター、市) : 説明担当者

(様式)

参) 大和という話が以前でしていたがどうか？

参) 大和団地であれば大和団地の方専用のバス・能勢電・阪急のセットのパスなどを発行できるように働きかけをするなどできないでしょうか？

参) 能勢電車のイメージアップは川西市において非常に影響が大きいと考えている。「料金が低い」ということと「川西なのに能勢電」という名前の部分でイメージアップが図れればと思う。

参) 救命率向上という話があったが、普通救命講習の参加者数は少ない。講習の参加者数を増やすためにはどうしたらいいか？

参) 昔は学校の授業の一環で救命講習があって親も一緒に参加していた記憶があるが、最近では学校で行われていないように思う。ある程度強制的でないとう講しないのではないかととも思う。

参) 私は、動機づけがあれば良いのではないかとと思う。「講習やりますので来てください」だけではなかなか人は集まらないかと思うので、「何かがあるから、こういう際に役立つから講習を受けて下さい」ということが必要かと思う。

参) 講習を受けたら何かもらえるのですよね？

市) 修了書がもらえる。ただ、修了書を持っているからといって何かができるものではない。1回だけでは内容も忘れてしまうと思うので、消防本部としては、継続して受講してもらうことを進めているが、講習の受講者が増えていないことは課題だと認識している。

参) AED の設置件数はどのくらいか？

市) 市内の公共施設にはほぼ設置されていますが、詳細は市のホームページに掲載している。

参) 駅や病院にはありそうなイメージがある。

参) 行事に参加をするのにあたり何かモチベーションが欲しいと思うし、色々企画されている行事も小さなことや小さい範囲から入っていきたい。やはり、参加した際のちょっとした景品は欲しい。

参) 提案7にあるように自然と近いところが川西市の1つの魅力だと感じている。穏やかさもいいところ。田んぼの継承者がいなくて、空き地が増えている。でも農業をやりたいと思っている人もいると思うので、以前の市民会議で話が出ていた空き家と農業をセットにした利活用の提案も良いなと感じた。

農リンピックといった旧耕田などで行われているイベントで地域活性化や農業の活性化にアプローチをしている事例もあるので、公園をわざわざ作らなくても子供たちが安心気軽に遊べる場所があれば、車でわざわざ遠方に出かける必要もなくなり、もっと素敵なまちになると考えている。

また、働いている世代でも田んぼや自然を残すかわり方が出来ればいいなと考えている。

参) : 市民参加者、コ) : コーディネーター、ナ) : ナビゲーター、市) : 説明担当者

(様式)

- コ) 川西市の魅力として「緑が多い」というのは皆さん感じているんですね。
- 参) 芋ほり体験の情報なども口コミでしか手に入らなかったことがある。近くに農業体験ができるようなところがあるのであればもっと情報が欲しいと思う。
- 参) 自身が小さいころに体験した稲刈り体験がよかったので、自分の子供にも経験させたいと思っていた。探してみると農協が企画している稲刈り体験があり、親子で参加できて良かった。体験型の取り組みも川西市として実施やPRしたらいいのではないかなと思う。
- 参) 提案4について感じていることがある。自治会やコミュニティと行政の役割が分かりにくい。自治会の役割を縮小させて、加入者を多くし、行事などはやりたいメンバーで準備を行うなどしたらどうかと考えている。行政と自治会の役割をフラットにしてほしい。
- コ) 前回の市民会議でも話が出たように、一番難しいことはこれまでの自治会としての活動の経過があるので、変えていくのは難しいと思うが、誰かが変えてくれるわけではないので、住民1人1人と行政とが一緒に変えていかないといけない。
- 参) 色々な提案が書かれており、良いなと感じるが、これがどのように生かされていくのかなと感じている。
- コ) 提案書の中に入っていることを「行政がやるべきなのか?」「今は個人でやるのがいいんじゃないの?」と考え行動に移していくことが大事で、行政だけでなく市民の皆さんも地域に帰った時に、1つでも考えたり行動へ移していただきたい。
- 市が行っている地方自治は手が届いていない部分が多くある。市の構成の中に市民がおり、市と市民と一緒に自治を行っていくことが地方自治の形であり、その仕組みの一つに自治会やコミュニティなどがある。自治体が全てやっているわけではないし、できていることもある。是非、市民会議をきっかけに行政活動に興味をもっていただき、地域活動にも参加いただきたい。

総合戦略や提案全体について

参) いろんな意見があるので、それぞれの意見が正しいように感じる。これを提案としてまとめるのは難しいと思うので、この後は市でどれを進めていくのかということを考えてもらうしかないのではないかな。今後も市が取り組んでいくことと市民として取り組んで欲しいことの市と市民がキャッチボールすることがいいのではないかなと思う。

個人的に、今回の市民会議に参加できて良かったと特に感じることは色々な人の意見を聞けたということである。

コ) この意見を生かすか殺すかは市の職員の役割で非常に重いのではないかなと思う。市の職員だけでは思いつかないアイデアもあるし、市民からの声で「やって欲しい」と言われることで行政は進めやすいこともある。このような会議が1回だけではなくて、定期的に行われることがいいと思う。

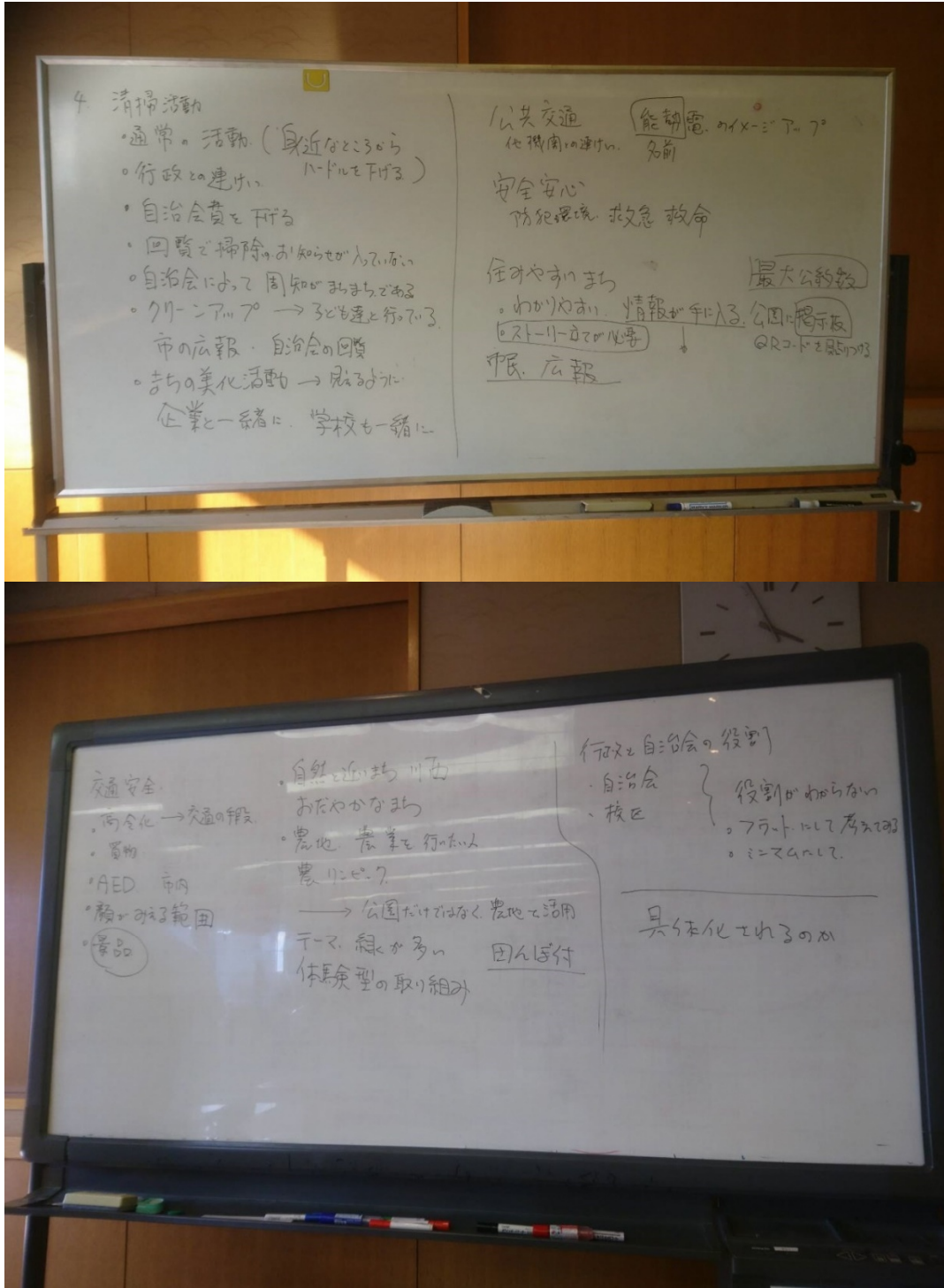
参) : 市民参加者、コ) : コーディネーター、ナ) : ナビゲーター、市) : 説明担当者

(様式)

参) 5班ある市民会議の提案を市はいくつぐらい実現する予定か?

コ) 今後の市の進め方については、3年の予算などの中から5班の提案の実現可能なものを選んでいくこととなる。今の段階でいくつ実現するということは言えないと思うし、既存の事業を止めないと実施できないこともでてくると思う。ただ、今後どの程度が実現できそうなのかといった話は市より説明があると思う。

ホワイトボードの写真



参) : 市民参加者、コ) : コーディネーター、ナ) : ナビゲーター、市) : 説明担当者